

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

注意報第1号

イチゴ親株におけるハダニ類の発生について

イチゴの親株におけるハダニの発生量は、4月までは前年よりも低い水準にありました。しかし、4月下旬以降高温・乾燥傾向が続いたため、発生量は増加傾向となり、5月5半旬調査では、寄生株率、発生ほ場率とも前年を上回る値となりました。今後1カ月の気象予報でも、気温は平年より高いとされており、さらに増加することが懸念されます。

本ぼでのハダニ類の発生を抑えるためには、定植苗による持ち込みを防ぐことが必須です。親株や子苗に対するハダニ類の防除を徹底して下さい。

1 対象作物名：イチゴ

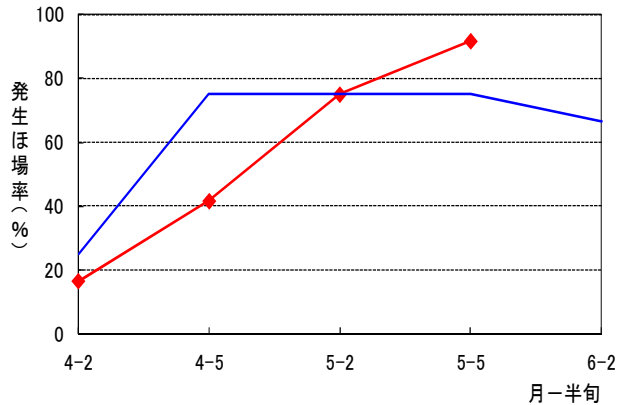
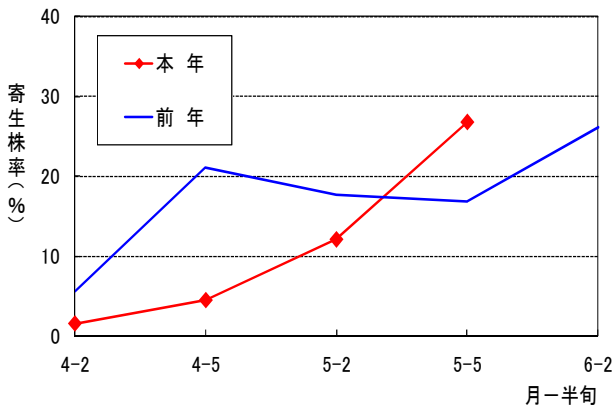
2 病虫害名：ハダニ類

3 発生状況

5月5半旬調査結果、イチゴの親株におけるハダニ類は、寄生株率、発生ほ場率とも前年よりも増加していた。

寄生株率 26.8% (前年 16.8%)

発生ほ場率 91.7% (前年 75%)



親株におけるハダニ類の発生推移

※ 親株の調査は前年から実施しているため、平年値はなし。

調査地点ごとの親株におけるハダニ類の発生状況		
調査地点	寄生株率 (%)	
	4月5半旬	5月5半旬
A	0	4
B	20	88
C	4	16
D	0	2
E	0	36
F	0	40
G	12	56
H	12	46
I	0	14
J	0	12
K	7	8
L	0	0
平均	4.6	26.8

#### 4 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。
- イ 苗の親株からの切り離しは、遅れず適期に行う。また、苗を採り終えた後の親株は、放置すると増殖の場となるので、速やかに処分する。
- ウ 下位葉にはハダニ類が多く寄生しており、薬剤もかかりにくいいため、摘葉を励行する。摘葉した葉は親株床に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- エ 薬剤防除は摘葉後に行うと効果的である。なお、摘葉後は炭疽病の薬剤防除も併せて行う。
- オ 気門封鎖剤を含めた異なる系統の薬剤を、ローテーション散布する。なお、気門封鎖剤は、卵に効果が低く残効も短いので、約7日間隔で複数回散布する。
- カ 土着天敵を活用するため、天敵への影響が大きい有機リン系薬剤や合成ピレスロイド系薬剤を不必要に多用することは避ける。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



